



しながわ 防災学校

令和6年度 福祉・保健医療関係者コース

③避難行動

講座テキスト

しながわ 防災 学校

テーマ③

避難行動

しながわ
防災
学校

はじめに

1

【参考】地震と大雨・台風における避難行動の考え方の違い

地震



災害**発生後**の避難

大雨・台風



災害**発生前**の避難
より安全な場所への避難

学習目標と学習内容

◆目標

要配慮者の避難行動上の課題や必要な支援について理解する

◆内容

1. 要配慮者の避難行動の実態と課題 3
2. 要配慮者の避難支援 8
3. 【ワーク】要支援者が避難行動で困ることと
必要な支援について考えてみましょう 23



しながわ 防災 学校

1. 要支援者の避難行動の実態と課題

「平成30年7月豪雨」人的被害について学ぶ

全国での直接死者数及び行方不明は、計231名。犠牲者の54%は土砂災害、35%は洪水によるもの。

- 「土砂」犠牲者の92%は、土砂災害危険箇所付近で発生。これは近年の風水害と同傾向。
- 「洪水」「河川」犠牲者は、6割が浸水想定区域付近で発生。
- 犠牲者の61%は屋内で発生。「土砂」犠牲者の8割前後が屋内に。
- 避難途中で遭難(21名)、避難先から帰宅などして遭難(4人)している方もいる。

災害危険箇所・
エリアからの
避難が不可欠

適正な避難先の
選択が必要

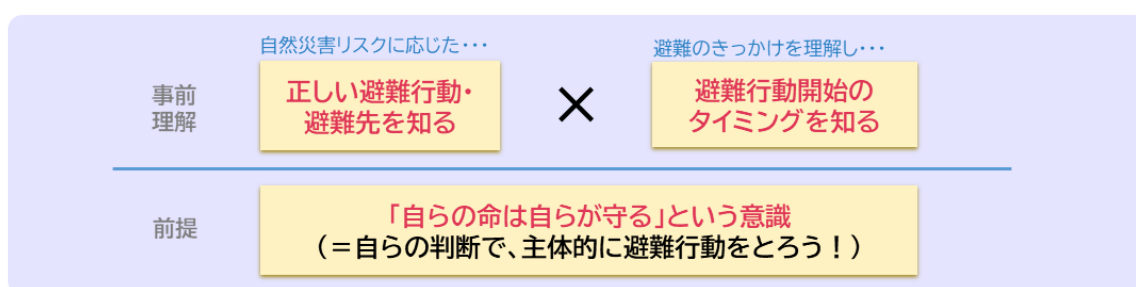
危険の高い中で
の移動は避ける

避難開始のタイミングの重要性が改めて示唆された。
犠牲者軽減には、ハザードマップ的情報が重要であることが改めて示された。

災害から命を守るため必要なこと

- 「災害危険箇所・エリアの外」の避難先への行動（立ち退きが基本）
→ 「土砂」の場合、その行動が不可欠
- 行動開始～安全な避難完了を可能とする「早めの避難」
→ 避難開始のタイミングを見誤らない！

その実現のためには…



避難行動に係る悩ましい課題

課題①

- 思い込み「わたしは、危機には見舞われない！」

課題②

- 正しい避難行動に結びついていないケースがある

課題③

- 自分だけでは避難できない人がいる

課題① 思い込み「わたしは、危機には見舞われない！」

きっと自分は大丈夫だと思った。だって、今までも大丈夫だったから。

- 自分に不運な出来事が起こる確率を過小評価。
「周りには起こるかもしれないけれど、自分は大丈夫」と捉える＝「楽観性バイアス」の存在が・・・
- 経験からとっさに「ありえない」と思い、それを正常の範囲内のことだとする傾向＝「正常性バイアス」の存在が・・・



わがこと化の必要／「関心を持ち、私の自然災害リスクを知る」

1. ハザードマップを取り出す



2. 自宅を確認(自宅はどこ?)

「平成30年7月豪雨」
証言・・・

「私はこうして避難できた！」

居住地の災害リスクを
自分ごととして認識していた
今までの経験上、この雨は尋
常じゃないと思ったんですよ。
これは被害が出てもおかしく
ないかと。昭和42年の水害
が頭をよぎって、またあの時
のようになるのではないかと
思いましたね。
区市 60代 男性 2人家族
集会所へ避難

3. リスク等の確認・書出し

- ☐ 危険な場所にある？
(浸水区域内にある?)
- ☐ 危険な場所の外はどこ？
(上記、区域外は?)
- ☐ どこが避難先になる？
(親戚・知人宅・避難場所は?)

課題② 正しい避難行動に結びついていないケースがある

避難しようと外に出ると道路に水があふれ、移動すること自体がとても危険だった。

- 屋内で被災するケース、屋外の避難途上で被災するケースが多くある。リスクに応じた「自分の安全な避難先・タイミング」の理解が十分でない。
- 「行動開始のタイミング」を逸してしまい、目の前に危険が生じる中で、移動していることが少なくない。



【風水害時】リスクに応じた避難行動・避難先

リードタイムを確保できる場合にとるべき避難行動！

立退き避難

避難先

- ・小中学校、公民館など「指定緊急避難場所」
- ・安全な親戚、知人宅、ホテル・旅館など自主的な避難先



屋内安全確保

避難先

- ・自宅や施設等の浸水しない上階
- ・安全な上層階に留まる(待避)



大雨時、より安全な場所への避難(その場所が安全なら「待避」)

【風水害時】リスクに応じた避難行動・避難先

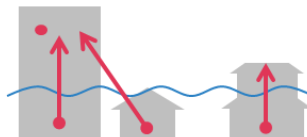
既に危険は目の前に、屋外での移動が危険と感じたら・・・

緊急安全
確保

命を守るための最善の行動！

避難先

- ・ 堅牢な建物の上層階に避難する
- ・ がけ崩れ等のリスクがある場合は2階の斜面から離れた部屋に移動する



「平成30年7月豪雨」証言から・・・

<p>外に出るのが危険と判断 垂直避難を選択した</p> <p>道路が冠水していて、とても車で避難所まで行けない状態でした。母親が歩けないので、車が使えないと避難できないんです。なので、まず2階に上がりました。母は平屋に住んでいたのでベッドの上になりました。</p> <p>海田町 60代 男性 3人家族</p> <p>自宅の2階へ避難</p>	<p>外に出るのが危険と判断し 近くの安全な場所に避難した</p> <p>避難所に行こうと思ったんです。でも、あちこち道が壊れて行けなかったで隣の家に避難しました。逃げる時に、ころげかかって股が下着まで濡れてしまいました。翌朝までそのままで過ごしました。</p> <p>三原市 70代 男性 3人家族</p> <p>隣の家へ避難</p>
--	--

【風水害時】風水害時、土砂災害時の避難の流れ

大雨・台風等
のおそれ

避難行動

避難生活

大雨・台風等
のおそれ

ハザードマップの確認
災害に備えた避難行動の確認

いいえ

自宅にいるのが不安

はい

自宅

自宅が浸水想定区域や
土砂災害（特別）警戒区域にある

いいえ

はい

警戒レベル3（高齢者等避難）発令

自宅（在宅避難）

避難場所、安全な親戚・知人宅等

自主避難施設

自宅で生活可能

自宅で生活不可能

自宅（在宅避難）

物資の配給

指定された区民避難所（区立学校など）

あらかじめ
区が指定した
避難行動要支援者

避難者が多数の場合

補完避難所

福祉避難所
（シルバーセンター、社会福祉施設など）

警戒レベル4（避難指示）
までに全員必ず避難

大雨・台風時の避難のきっかけとなる避難情報

基本

- 自らの命は自らが守るという意識を持つ
- 避難ができなくなる前に、早めに、安全な場所に避難する

警戒レベル	状況	避難行動等	避難情報等
5	災害発生 または切迫	・ 命の危険があることから直ちに安全を確保する	緊急安全確保
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞			
4	災害の おそれ高い	・ 危険な場所から全員避難する	避難指示
3	災害の おそれあり	・ 避難に時間を要する高齢者等は避難を開始する ・ その他の人は避難の準備や自主的に避難を開始する	高齢者等避難
2	気象状況悪化	・ 避難に備えて、ハザードマップ等で自らの避難行動を確認する。	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化 のおそれ	・ 災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

参考：内閣府（防災担当）「避難情報に関するガイドライン（p. 34）」（令和3年5月）、品川区ホームページ「警戒レベルを付した避難情報等の運用」（令和3年6月）

課題③ 自分だけでは避難できない人がいる

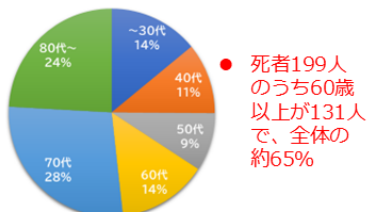
自分だけでは避難を決められませんでした。
周りの家が避難していなかったから、私も避難しませんでした。

- 「避難の呼びかけ」や「周りの人の避難行動」がないと、自分が行動すべきか悩む。

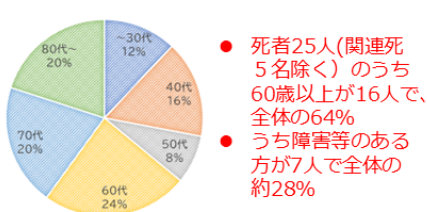
自立して避難することが出来ない、「避難支援」を受けることなしに、避難できない。

「平成30年7月豪雨」における人的被害より

愛媛県・岡山県・広島県の死者数（年代別）



呉市の死者数（年代別）



- 高齢者や障害者などに多くの被害が生じている。
- 自立して避難できない人がなくなっているケースも見られる。

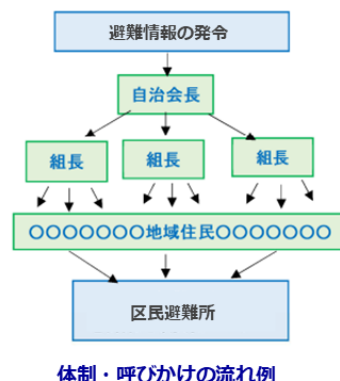
避難の呼びかけ体制づくり

「他者(家族や近隣の人や防災区民組織など)からの避難の呼びかけ」
が避難行動を促進する

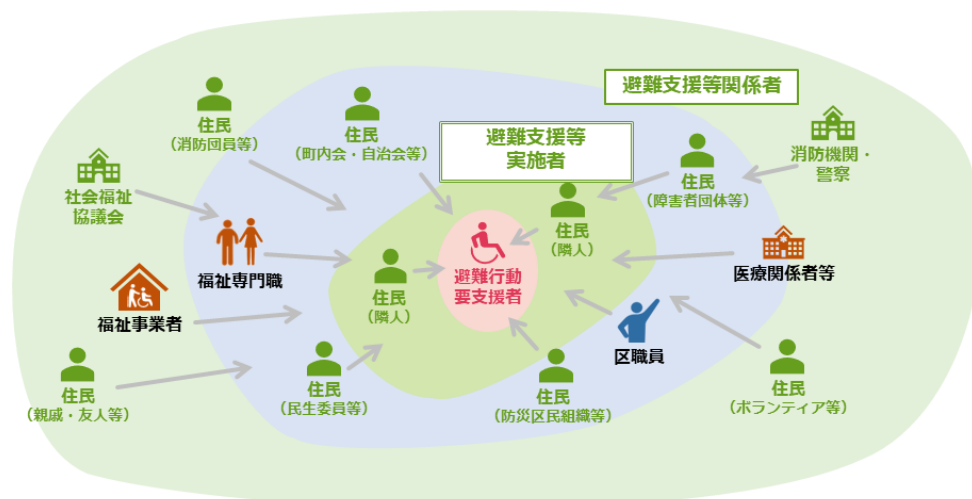
＜平成30年7月豪雨時の避難行動を取った理由＞

- 隣の人が避難するのを見たから
- 友人から避難を呼びかけられたから
- いつ避難すべきか迷っていたら近所の人が声をかけてくれたから

**他者の動向や避難を呼びかけられること等によって、
避難行動が促進された。**



避難行動要支援者とその避難支援等に関わる人たち

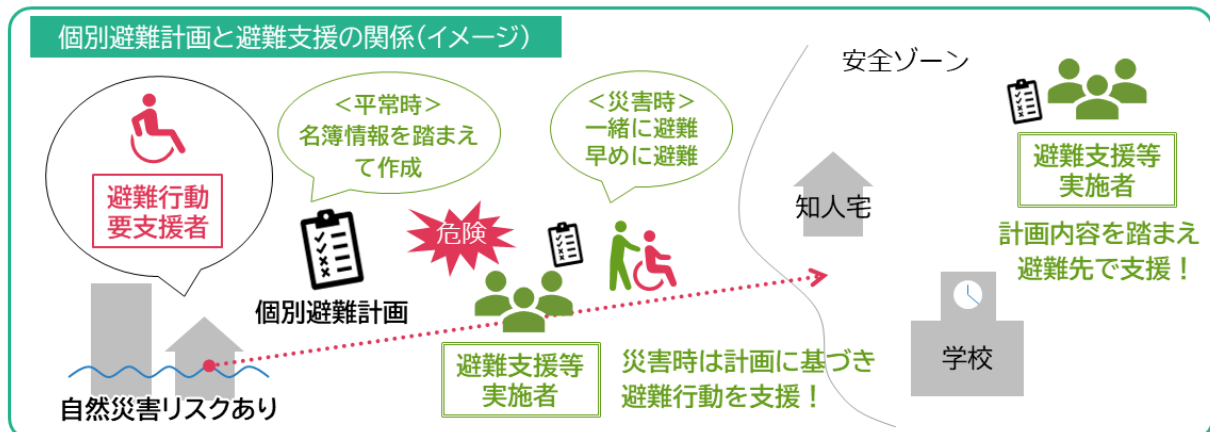


避難行動要支援者を中心として、平常時・災害時に
地域の様々な人たちが関わりながら避難支援等を行う

個別避難計画の活用

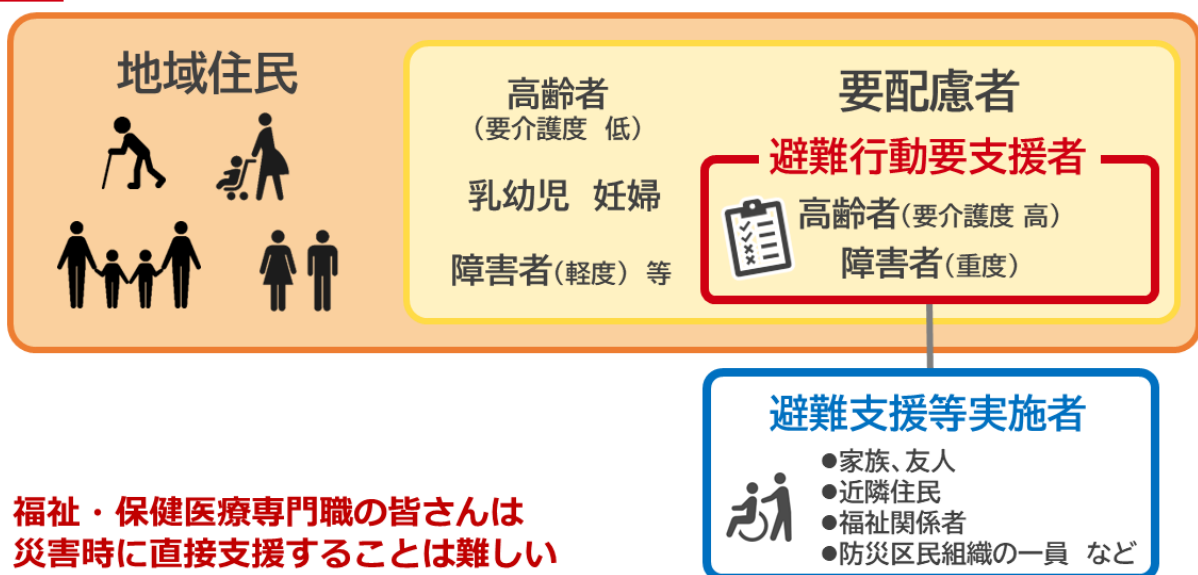
災害時に一人では避難することが困難な方(避難行動要支援者)が、**いつ・どこに避難するか、誰が支援するか、避難するときどのような配慮が必要かなど**をあらかじめ記載した避難計画。避難行動要支援者ごとに作成する

個別避難計画と避難支援の関係(イメージ)



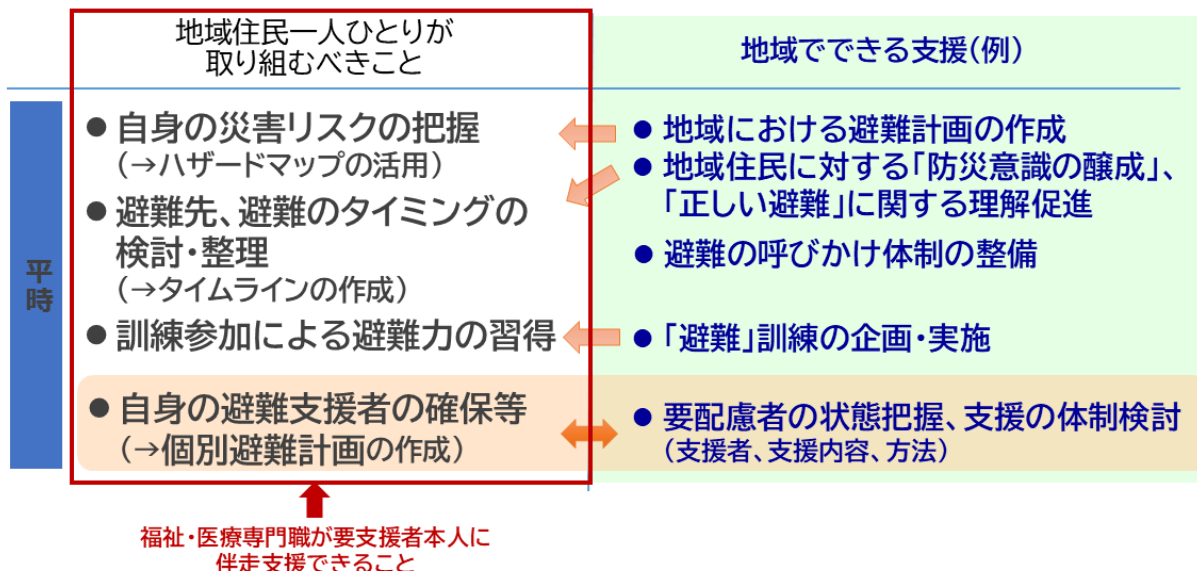
2. 要支援者の避難行動に対して 福祉・保健医療専門職にできること

避難及び避難支援の考え方



福祉・保健医療専門職の皆さんにできること 要支援者本人や家族に避難行動のポイントを伝える

避難行動要支援者
に関すること



福祉・保健医療専門職の皆さんにできること 地域の人たちに避難行動支援のポイントを伝える

「避難訓練」などの企画段階や当日に参加し、避難支援における行動や活動の進め方、ポイントや留意点に対し助言する

◆ 福祉・保健医療専門職としての助言のポイント

- ☐ 安全な避難行動の仕方や留意点
- ☐ 本人の状態や状況にあった避難経路や避難先の選定
- ☐ 「避難の連絡(呼びかけ)」や「避難誘導や搬送」など、避難支援等の実施にあたり配慮すべき事項や留意点等

避難行動要支援者本人の避難行動力をあげ、また、避難支援等関係者の避難支援等の理解を深めることで、個別避難計画の実効性向上につなげる！

【参考】支援者等実施者の責任についてよく指摘される事項

よく指摘される不安・・・

- 個別避難計画で支援者となっていたのに、災害時に支援できなかったら？
- もし、避難支援の途上で、自分や避難行動要支援者が負傷したら？

支援しようと思っていたけれど・・・

支援できなかった！

助けることができなかった場合でも、支援者が責任を負うものではない



支援したけれど・・・

ケガをさせてしまった！

悪意または重大な過失がない限り、原則として責任を問われない



支援にあたっては、みなさん自身や家族の安全を守ることが大前提

しながわ 防災 学校

【ワーク】

3. 要支援者が避難行動で困ることと必要な支援について考えてみましょう

みなさんが普段かかわっている
要支援者の方を思い浮かべてください。

その方々の避難行動上では
どのようなことに困るでしょうか？

その方々がうまく避難できるようにするために、
どのような支援があるとよいでしょうか？

グループワークの進め方

- | | |
|---|-----|
| ① アイスブレイク（自己紹介、役割分担） | 5分 |
| ② 個人検討（普段かかわっている要支援者の方の避難支援について考えましょう） | 3分 |
| ③ グループ検討（要支援者がうまく避難できるようにするために、どんなことができるかを話し合いましょう） | 15分 |
| ④ 発表（共有）・講評 | 3分 |

アイスブレイク（5分）

自己紹介をしましょう

- ① 名前
- ② 事業所名
- ③ 普段関わっている要支援者はどのような方か

個人検討（3分）

先ほど紹介し合った「普段かかわっている要支援者の方」について、次のことを検討してください。

【検討内容】

- 要支援者の状況を踏まえ、避難行動上ではどのようなことに困るでしょうか？
- うまく避難できるようにするために、どのような支援があるとよいでしょうか？

グループ検討（15分）

個人で検討した要支援者の避難について、グループ内で共有してください。

【共有すること】

- 要支援者の状況を踏まえ、避難行動上で困りそうなこと
- 上手く避難できるようにするためにできそうなこと、難しそうなこと、悩み

発表

各グループで行った検討内容について
みなさんに共有してください

まとめ

- 過去の災害では、**自分は被災しないという思い込み、正しい避難行動に結びついていないケースがある、自分だけでは避難できない人がいる**、などの避難行動の実態と課題があった
- そのため**平常時から避難のことを考えておく必要がある**
- 福祉・保健医療専門職として、**地域の人たちに避難行動支援のポイントを伝える必要がある**